



本気元氣根氣

「本気で勉強，ファイトで運動，やる気とねばりでとことんまで」
佐賀市立巨勢小学校 学校便り12号 平成30年10月26日 文責 校長 富永 英美
☆児童数301人（10月1日現在）

佐賀市立巨勢小学校 ～校名板掛けかわる～

つなぐ・重ねる



旧校名

およそ30年前、今の東島教育長さんや南川副小学校の古川正幸前校長先生が巨勢小学校の職員だった頃、校門辺りの整備が行われ、校名入りの板が校門に立つ石柱に掲げられました。（校名は古川前校長先生の筆によるもの）

しかし、長い月日、太陽の日差しや熱、風雨などに晒された板は、やがて校名も見えなくなるほどになってしまいました。今回、毎年寄付していただいている古賀常次郎様のお金を使わせていただき、新しい校名板を設置しました。子供たちにも紹介したことで、手で触れたり見上げたりと興味を示してくれています。この後、先輩に負けないよう、毎日のように「子供たちの朝」を静かに見続けてくれることでしょう。



ぽかぽかの木活動



図書室の前にある「ぽかぽかの木」。ここには、友だちが頑張っていることや友だちからしてもらったことなどを書いた葉っぱがたくさん並んでいます。友だちからのメッセージを読んだり、聞いたりすることで、自分への気づきを再発見し、自己肯定感の向上につながればと思います。一部を紹介しましょう...。「ゆうとさんへ 黒板のお掃除がんばっているね」「元気さんへ いつも遊んでくれてありがとう」「あいきさんへ 人権リーダー頑張っているね」「いつもゆうあ君は挨拶を大きな声ではきはき言っているからすごいです。ぼくもゆうあ君みたいに大きな声ではきはき挨拶できるとようになりたいです。」

図書貸し出しデータ4月～9月



図書室貸出冊数のデータです。今年度も一人あたりの冊数は順調に伸び、9月末で約73冊となっています。ただ、昨年度同時期よりも少なくなっています。どうやら、9月の貸出冊数が昨年より少なかったことが要因のようです。読書祭りなどの企画も後押しにしながら読書量増加をめざします。

H30きらい県文集 特選入賞者

今年度のきらい県文集佐賀市特選者の紹介です。おめでとう!!
1年: 矢ヶ部さん「学習のふりかえりより」、2年: 内野さん「どきどき応援合戦」、3年: 西原さん「楽しかったアトラクション」、4年: 内山さん「母が時々私に言う言葉」、5年: 金丸さん「動物の命」、6年: 橋本さん「体をこわしかけない投球に疑問」



12月の主な行事

日 曜	主な行事等
1 土	いじめ命を考える日・土曜授業 低学年学年活動
3 月	特別校時 ～7日（金）ALT
4 火	県学力状況調査【国・算】4・5・6年
5 水	県学力状況調査【理・社】4・5・6年
7 金	SC来校
10 月	地震避難訓練
11 火	読書タイム
12 水	はげみタイム・昔遊び
13 木	やまびこタイム
14 金	地区児童会・学級PTA
17 月	学級タイム・ALT
19 水	巨勢っ子見守り隊
20 木	給食終了
21 金	2学期終業式
22 土	冬休み～
1月 8日	3学期始業式・いじめ命を考える日

秋の収穫 ~稲刈り~

10月23日(火)今にも雨が降ってきそうな天気の中、5年生と1年生、そして、巨勢保育園・錦華幼稚園の年長さんとで稲刈りをさせていただきました。JA営農センターの藤田さんとJA青年部原田さんを始めとする7人の方々にご協力いただいたの作業でした。さすがに5年生は、2~3回ノコギリ鎌を使ったら、コツをおぼえサツ、サツと刈り取っていました。1年生や園児さんへの手ほどきも優しく丁寧で、見ているだけで嬉しくなりました。途中から本降りの雨になりましたが、どの子も最後まで熱心に作業してくれました。



巨勢小の先輩たち ~資料室の工事間もなく始まる~

巨勢小には、多くの先輩方がいらっしゃいますが、下の4人は特にその活躍がすばらしかった方々です。今度この4人の功績を資料を通して紹介します。(今度建設予定の資料室は、以前放送用スタジオとして使っていた部屋を活用します)

小澤 武 様



小澤(こざわ)武(たけし)さんは、日本の剣道の発展に大きくかかわった人です。武さんは、明治の終わりのころ、巨勢町大字牛島(現在の牛島下あたり)に10人きょうだいの9番目として生まれました。20歳の時、京都にある武道の専門学校に入学し、剣道の技をみがきました。1929年(昭和4年)、卒業後、茨城県水戸市の当時の県立高校や師範学校で生徒たちに剣道の指導を行いました。そして、1930年(昭和5年)、水戸にある武道場「東武館」の第4代館長となり、茨城県を始めたとして、全国の剣道の技を磨く子供たちのために力を注ぐようになりました。また、1960年(昭和35年)「全国選抜少年剣道錬成大会」を初めて行った人でもあります。

真崎 仁六 様



真崎(まさき)仁六(にろく)さんは、日本で初めて学習には欠かせないえんぴつ的大量生産に成功した人です。仁六さんは、1848年(嘉永元年)巨勢町大字高尾に生まれました。長崎で英語を学んだ後、東京の貿易会社に入社しました。1878年(明治11年)、フランスのパリで行われた万国博覧会に参加しました。そのとき、日本ではあまり使われていなかった鉛筆が、ヨーロッパでは普通に使われていることにおどろき、日本でもつくり出す決心しました。日本に帰ってから、仕事の合間に材料を研究したり、鉛筆をつくる機械の設計を考えたりして努力を重ねました。1887年(明治20年)真崎鉛筆製造所(今の三菱鉛筆株式会社)を設立し、日本で最初に国産鉛筆の製造を始めました。

真崎 照郷 様



真崎(まさき)照郷(てるさ)さんは、イギリスの発明家ワットにあこがれ、努力を重ね、数多くの機械を発明した人です。照郷さんは、1875年(明治8年)巨勢町大字高尾に生まれました。父ののこした「世の中を豊かにするような人になりなさい」という教えをもとに、いろいろな機械をつくり出しました。まず、長い年月をかけて麵を作る機械「製麵機」を発明しました。この機械はたいへんすばらしいものだったので、日本以外の外国でも使われるようになりました。各地の博覧会で1等を取るなど、60回以上の受賞をし、照郷さんの功績は高く評価されました。そして、照郷さんは、これからの時代は電気を利用する機械が必要だと考え、農業に目をつけました。その後、田に水をくみあげる機械、電動ポンプを発明し、佐賀県の米づくりに大きく貢献しました。

古賀 常次郎 様



古賀(こが)常次郎(つねじろう)さんは、「忍耐と努力」を常に心に持ち続けることによって、発明家として名を残し、実業家となり、篤志家(とくしか)として活躍されています。常次郎さんは、1939年(昭和14年)巨勢町大字修理田に生まれました。高校を卒業し1967年(昭和42年)、振動しても緩まない皿ピストンとワッシャーを発明し、第1回市村賞など数々の賞を受賞されました。また、1968年(昭和43年)、29歳の時会社を立ち上げ現在は会長としての仕事に励んでいらっしゃいます。そして、25歳から更生保護活動など様々な面で活躍をされ始め、現在まで続けられたことが認められ、これまでに数多くの賞を受賞されています。